

竹原市今井政之顕彰施設 基本構想

令和 7 年 5 月
竹原市教育委員会

目 次

第1章 はじめに

1. 今井政之について	6
2. 事業の背景	1 3
3. 本基本構想の位置づけ	1 6

第2章 基本理念について

1. 基本理念	1 8
2. 基本理念を実現する5つの機能	1 9
3. 事業の方向性	2 0
4. 事業の全体像	2 2

第3章 事業計画（案）

1. 事業1 陶藝家 今井政之の足跡と功績を知る	2 6
2. 事業2 陶芸や自然に身近に触れ、学びや文化のタネを育む	2 7
3. 事業3 世界とつながり、地域のにぎわいを推進する	2 8

第4章 施設計画

1. 立地の検討	3 0
2. 想定される諸室機能	4 2
3. 展示の方向性（案）	4 3
4. 資料収集・保存の考え方	4 6

第5章 管理・運営計画

1. 運営手法	4 8
2. 収蔵および資料管理体制（案）	5 0
3. 収益支出の項目想定	5 1
4. 事業費・スケジュール	5 2

参考資料

竹原市今井政之顕彰施設基本構想策定委員会	5 4
ヒアリング調査 概要	5 5

第1章 はじめに

1. 今井政之について

いまい まさゆき

今井 政之

昭和 5 (1930) 年 1 2 月 2 5 日生

令和 5 (2023) 年 3 月 6 日没



陶藝家・今井政之は大阪市で出生後、戦時中の疎開をきっかけに少年時代を竹原市で過ごしました。竹原工業学校(現 広島県立竹原高等学校)を卒業後、陶芸の道を志し、岡山・京都で修業を積んだのち、昭和53(1978)年、郷里の瀬戸内を臨む竹原市に豊山窯を築き、生涯にわたって制作の拠点としました。

備前の田土、広島・西条の赤土、志野のもぐさ土を使い薪窯を焚き、最後に竹原の藻塩を投げ込むことで被せた塩釉が生み出す独特の窯変技法を用いて、竹原・瀬戸内の自然をモチーフにした作品を制作し、晩年まで新しい手法への挑戦、及び研究を重ねました。

(1) 陶藝家としての功績

作品の本体に異なる色合いの土を埋め込んで模様を作り出す技法である、面象嵌を取り込んだ日本陶芸界の第一人者として、平成15(2003)年に日本芸術院会員、平成21(2009)年に旭日中綬章を受章され、平成23(2011)年に文化功労者として顕彰されました。また、平成30(2018)年に文化勲章を受章されました。

竹原・京都の2か所を拠点に苔泥彩や窯変など「土を探究する」独自の技法での表現にこだわった自身の作陶活動が続けながら、日展顧問や京都美術工芸大学客員教授をはじめとした後進育成にも注力し、陶芸界に大きな功績を残されました。

●今井政之が得意とした特徴的な技法

苔泥彩	面象嵌	白砂瓷
		
京都・西芳寺の庭園に感銘を受け、土の質感を活かすくすんだ苔色の釉薬を開発	作品の本体に異なる色合いの土を埋め込んで模様を作り出す技法を完成	粘度が低く象嵌が難しい磁器への象嵌を独自の磁土開発で実現

(2) 竹原市の芸術文化への功績

現在竹原市内では、今井政之の作陶拠点であった豊山窯に設置された私設展示館「今井政之展示館」のほか、平成19（2007）年より町並み保存地区内にある旧光本家住宅内に設置された「今井政之 陶芸の館」にて、今井政之・眞正・裕之の親子2代の作品の常設展示を行っています。令和5（2023）年3月末に閉館した、「たけはら美術館」でも、これまでに今井政之の作品をテーマとした4回の特別展を開催。特別展に合わせたイベントとして、作者である今井政之自身が登壇し、作陶背景や作品解説を語るギャラリートークにも御協力いただきました。

また、「夢を持ち、竹原の子供たちの中から、芸術家を目指す子が育ってほしい。」という思いから、地元小学校などを対象とした陶芸特別教室の開催協力や竹原小学校の屋内運動場緞帳への原画の寄贈もいただきました。

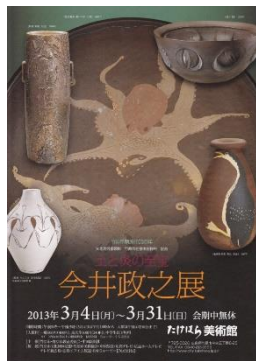
これらの長年にわたる地域教育や芸術文化への功績を受けて、平成24（2012）年には竹原市名誉市民、平成30（2018）年には広島県名誉県民として顕彰されています。

●たけはら美術館 企画展

平成20（2008）年
「伝承する心
—今井政之・眞正・裕之
父子三人展—」



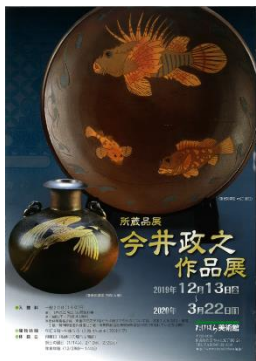
平成25（2013）年
「土と炎の至宝 今井政之展」



平成29（2017）年
「京都工芸の精華 -2017-」



令和元（2019）年
「今井政之作品展」



●「土と炎の至宝 今井政之展」開催イベント



・作陶実演



・地元小中学生向け
ギャラリートーク

●地元小学校での陶芸特別教室



(3) 国際交流

海外での日本陶芸の親善・発信にも、積極的に活動しました。今井政之は昭和41（1966）年のイスラエル国際陶芸シンポジウムに日本代表として参加したことを皮切りに、アメリカ合衆国での個展の開催や美術館での講義を行うとともに、中華人民共和国での博覧会への招待出品、ヨーロッパでの展覧会の代表となるなど海外での活動にも精力的に取り組みました。

また、平成元（1989）年には、外務省の要請により国際交流基金による文化講師として、ペルー共和国、アルゼンチン共和国に赴き、ペルー共和国では現地の陶藝家たちを前に壺を制作しました。その壺は、平成8（1996）年に発生した在ペルー日本大使公邸占拠事件で公邸内の美術工芸品で唯一破壊されなかった壺だったことが後年判明し、現在も「幸運の壺」として公邸に残っています。

(4) 平和への想い

昭和20（1945）年8月6日に人類史上初めて広島に原子爆弾が投下された時、学徒動員されていた竹原市内の工場で空が光るのを見たその経験から、今井政之は生涯にわたって被爆地・広島、平和希求に強い思いを寄せていました。平和あつての芸術という強い信念のもと作品制作をつづけ、後年には、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式典に来賓として招かれ出席されました。

平成28（1953）年にアメリカ合衆国オバマ大統領（当時）が、現職のアメリカ合衆国大統領として初めて原子爆弾が投下された広島市を訪問した時には、オバマ大統領への広島県からの記念品として、平和の象徴であるコウノトリをモチーフとした花壺が贈られました。

また、令和5（2023）年には、広島市で開催された主要国首脳会議（G7サミット）での首脳への贈呈品として、世界平和への結集の願いを込めて海老をモチーフとした花瓶を制作。なお、今井政之は作品完成直後に逝去し、この作品が絶作となりました。

(5) 活動拠点・豊山窯

今井政之の活動拠点であった豊山窯（広島県竹原市高崎町）には、登窯をはじめとした作陶施設があり、今井政之の逝去後の現在も今井眞正氏、今井完眞氏により作陶が続けられています。敷地内には今井政之の作品を多数所蔵・展示する今井政之展示館を開設するほか、表千家の茶室「松聲軒」と裏千家の茶室「柳慶亭」という二つの歴史ある茶室が移設され、今井政之が培った感性や美意識、茶陶とのかかわりを感じることができます。

昭和5年	1930年	大阪市に生まれる
昭和27年	1952年	京都青陶会が創立され、その同人となり日本藝術院会員楠部禰弍に師事
昭和28年	1953年	日展初入選
昭和34年	1959年	日展特選、北斗賞受賞
昭和38年	1963年	日展特選、北斗賞受賞 日本現代工芸美術展会員賞受賞
昭和39年	1964年	京都市展審査員 日本現代工芸美術展審査員
昭和40年	1965年	日本陶磁協会賞受賞 日展審査員
昭和41年	1966年	イスラエル国際陶芸シンポジウム日本代表として参加、欧州視察
昭和43年	1968年	日本現代工芸美術展審査員
昭和44年	1969年	日展審査員
昭和45年	1970年	個展（日本橋三越本店・東京）
昭和46年	1971年	日本現代工芸美術第10回記念展審査員 日本陶芸展推薦招待出品（以降第7回展(1983)まで推薦招待出品）
昭和47年	1972年	全関西美術展審査員 裏千家十五代鵬雲斎家元より「豊山窯」の窯銘を受ける
昭和49年	1974年	第4回ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ展名誉最高大賞受賞
昭和50年	1975年	日展審査員
昭和51年	1976年	日展評議員となる 中日国際陶芸展審査員
昭和53年	1978年	国際交流ジャカルタ日本現代陶芸展推薦招待出品 竹原豊山窯（登窯、穴窯）を築く
昭和54年	1979年	サンフランシスコ東洋の秘宝展（デ・ヤング美術館）特別招待出品 創立第1回日本新工芸展審査員
昭和56年	1981年	毎日新聞社主催個展（大丸神戸店・兵庫）摂津市体育館大陶壁を制作
昭和57年	1982年	毎日新聞社主催個展（大丸心斎橋店・大阪）
昭和58年	1983年	個展「今井政之の陶芸展」（東広島市立美術館・広島） 国賓として来日のタイ国王女シリントーン殿下が工房を訪問
昭和59年	1984年	毎日新聞社主催個展（高島屋・京都、岡山）
昭和60年	1985年	個展「今井政之陶芸展」（セイラムピーボディ博物館・アメリカ）が開催され渡米 ルクセンブルク大公国アンリ皇太子殿下来宅、制作工程を見学 個展「今井政之陶芸展」（モンタルボ美術館・アメリカ）が開催され渡米 毎日新聞社主催個展（日本橋高島屋・東京） 毎日新聞社主催個展（大丸心斎橋店・大阪）
昭和61年	1986年	「今井政之・加藤帥陶芸二人展」（有楽町阪急コミュニティギャラリー・東京）
昭和62年	1987年	アメリカ・カリフォルニア州フットヒル大学・カプリオ大学・サンホセ美術館 講義のため、渡米 京都の日本画と工芸「近代の潮流」展（京都市美術館・京都）
昭和63年	1988年	今井政之展示館を竣工する 京都文化博物館開館記念現代京都の美術工芸展（京都文化博物館・京都） 高島屋美術部創設80年記念「炎の舞」今井政之展（高島屋・東京、京都、大阪、岡山）
昭和64年	1989年	京都新聞社主催京都選抜展（京都市美術館・京都）
平成元年		京都新聞社共催第1回工芸美術創工会展（京都文化博物館）実行委員長 南米ペルー共和国及びアルゼンチン共和国へ外務省より国際交流基金に依る文化講師派遣 クスコ美術学校客員名誉教授に任命される 福屋創業60周年記念「土と炎の舞」今井政之展（福屋八丁堀本店・広島）

平成2年	1990年	毎日新聞社主催「土の華 今井政之展」(高島屋・東京、大阪、京都) NHK「工房探訪・つくる」に出演
平成3年	1991年	第1回日工会展内閣総理大臣賞受賞 広島文化賞受賞
平成4年	1992年	メキシコ、グアダハラ市へ京都市長と姉妹都市公式訪問 「土の華」今井政之展(松山市サンバーク美術館・愛媛) 「幽炎の華」今井政之展(東急渋谷本店・東京)(大丸心斎橋店・大阪)
平成5年	1993年	京都府文化功労賞受賞 紺綬褒章受章
平成6年	1994年	平安建都1200年記念・美術選抜展(京都文化博物館・京都) 京都高島屋新画廊開設記念「土の詩ー今井政之展」(高島屋京都店・京都) 中国新聞社主催アジア競技大会広島アートフェスティバル 「土と炎の舞展ー今井政之象嵌の世界」(福屋八丁堀本店・広島) (三原リージョンプラザ・広島) 読売新聞社主催「郷土が生んだ象嵌の名匠ー今井政之展」新作展 (福屋八丁堀本店・広島)同時開催 京都市文化功労者表彰 「今井政之近作展」(国立国際美術館・大阪)
平成7年	1995年	毎日芸術賞受賞 広島ホームテレビ賞受賞 京都の美術工芸展「技と構想の輝き」 東寺創建1200年慶讃大法会記念生きもの賛歌ー今井政之陶芸展(東寺・京都)
平成10年	1998年	第54回日本藝術院賞受賞
平成12年	2000年	滋賀県立陶芸の森、招聘講師 毎日新聞社主催個展(大丸心斎橋店・大阪)
平成15年	2003年	21世紀勢頭記念「炎の宴今井政之展」(高島屋・京都、大阪、名古屋、東京) 地域文化功労者として広島県から表彰される
平成16年	2004年	日本藝術院会員となる 日展常務理事となる 伊勢神宮に「象嵌彩窯変三遊魚紋大皿」を献納、神宮美術館に収蔵される 京都府文化財団の理事となる 福屋創業75周年記念・日本藝術院会員就任記念ー今井政之展 (福屋八丁堀本店・広島)
平成17年	2005年	やましな栄誉賞受賞 日本藝術院会員就任記念・今井政之展(高島屋・東京、大阪、名古屋、松山)
平成18年	2006年	紺綬褒章受章 「土の華ー今井政之展」(たけはら美術館・広島) 今井政之展(太宰府天満宮宝物殿・福岡) 中国景德鎮国際陶磁博覧会に招待出品 「日本藝術院会員ー今井政之展」(近鉄百貨店奈良店・奈良)
平成19年	2007年	紺綬褒章受章 中国新聞社主催第1回ひろしま陶芸展(福屋八丁堀本店・広島) 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式に来賓として出席 高島屋美術部創設百年記念「喜寿記念今井政之展」(高島屋・京都、横浜) 中国新聞社主催第2回ひろしま陶芸展(福屋八丁堀本店・広島)
平成20年	2008年	京都府文化賞特別功労賞受賞 竹原市制50周年記念「伝承する心ー今井政之・眞正・裕之父子三人展ー」 (たけはら美術館・広島) 中国景德鎮国際陶磁博覧会現代国際陶芸展に招待出品 京都府主催源氏物語千年紀「匠の美と技」ー京を彩る雅の世界一展 日仏交流150周年事業京都・パリ姉妹都市提携50周年記念 「工芸京都の精華展」 「L'ART de Kogei l'esprit de Kyoto, Japan」の代表として渡仏
平成21年	2009年	中国新聞社主催第3回ひろしま陶芸展(福屋八丁堀本店・広島) 旭日中綬章受章 『今井政之作品集』(ビジョン企画出版社)が刊行される 福屋創業80周年記念「傘寿記念今井政之展」(福屋八丁堀本店・広島) 中国景德鎮国際陶磁博覧会に招待出品

平成22年	2010年	中国新聞社主催第4回ひろしま陶芸展（福屋八丁堀本店・広島） 「傘寿記念今井政之展」（高島屋・東京、大阪、名古屋） 中国景德鎮国際陶磁博覧会現代国際陶芸展に招待出品
平成23年	2011年	中国文化賞受賞 中国新聞社主催第5回ひろしま陶芸展（福屋八丁堀本店・広島） 第1回中国高嶺国際陶芸展（中国景德鎮陶磁博物館・中国） 日本代表審査員 文化功労者顕彰
平成24年	2012年	「今井政之・眞正と下蒲刈」（三之瀬御本陣芸術文化館・広島） 「文化功労者今井政之展」（和光ホール・東京） 広島県竹原市から名誉市民の称号を受ける 中国景德鎮陶磁博覧会現代国際陶磁美術展に招待出品
平成25年	2013年	「文化功労者今井政之展」（高島屋・京都、横浜） 公益財団法人京都文化財団の評議員となる 「京焼の用と美ケルン手工業会館・ドイツ」に代表として渡欧 「京焼・美と創造展」（パリ日本文化会館・フランス） 第3回中日韓著名芸術家招待展（上海芸術礼品博物館・中国） 「京都工芸の精華」展（信州高遠高原美術館・長野）（中信美術館・京都） （ベトナム美術館）に代表として渡越 中国景德鎮陶磁博覧会現代国際陶磁美術展に招待出品
平成26年	2014年	紺綬褒章受章 第4回中日韓著名芸術家招待展（上海芸術礼品博物館・中国） 毎日新聞社主催あべのハルカス近鉄本店タワー館オープン1周年記念 「今井政之展」 福屋創業85周年記念「今井政之展」（福屋八丁堀本店・広島） 京都市美術館コレクション展第2期「京焼歴代展―継承と展開」に出品
平成27年	2015年	琳派400年記念日本画・工芸展「京に生きる琳派の美」（京都文化博物館） 第5回中日韓著名芸術家招待展（上海芸術礼品博物館・中国） 「一土と炎の彩化―文化功労者今井政之展」（高島屋・東京、大阪、名古屋）
平成28年	2016年	京都工芸美術作家協会70周年記念展（京都文化博物館・京都） 第6回中日韓著名芸術家招待展（上海芸術礼品博物館・中国） 京都市文化協会顧問に就任 「伝承と創造陶藝家今井政之三代展」（あべのハルカス近鉄本店・大阪） 京都工芸の精華2016（高島屋京都店・京都）
平成29年	2017年	京都工芸の精華2017（たけはら美術館・広島）（中信美術館・京都） 第7回国際伝統芸術招待展（上海芸術礼品博物館・中国） 「今井政之の藝術と今井家三代」展（福屋八丁堀本店・広島）
平成30年	2018年	「文化功労者今井政之米寿展」（高島屋・京都、横浜） 文化勲章受章 広島県から名誉県民の称号を受ける
平成31年 令和元年	2019年	京都府から特別功労表彰を受ける 中国新聞社主催「陶藝の巨匠―今井政之展」（福屋八丁堀本店・広島） 京都市から名誉市民の称号を受ける
令和 2 年	2020年	紺綬褒章受章 コレクション展「今井政之特集」（広島県立美術館・広島） 西本願寺から特別褒賞宗門文化章を受ける
令和 3 年	2021年	京都工芸美術作家協会75周年記念展「煌」（京都文化博物館・京都） 第十一届国際伝統芸術遂請展（上海芸術品博物館・中国） 伊賀市文化協会30周年記念展（伊賀市伝統的建造物・奈良） 「今井政之展―自ずから然らしむ―」（東広島市立美術館・広島）
令和 4 年	2022年	今井家三代展(H20 Retailing Corp、阪急インターナショナルホテル) 京都学講師（京都芸術大学、春秋座・京都） 文化庁京都へ「京の作家が魅せるInteractive」（高島屋京都店・京都） 京都府立陶工高等技術専門校（京都陶芸大学校）講演 “京都が、KOGEIする@広島”（福屋八丁堀本店・広島）
令和 5 年	2023年	真言宗立教開宗1200年記念「未来に美をつなぐ」 「今井家三代特別展」（教王護国寺、東寺 小子房・京都） 3月6日老衰のため死去 享年94歳 従三位に叙される

【歴職】	日本藝術院会員／広島県名誉県民／竹原市名誉市民／京都市名誉市民 日展名誉顧問／京都工芸美術作家協会顧問／工芸京都顧問／京都文化財団評議員 京展委員／京都美術工芸大学客員教授／京都花鳥館理事／京都市芸術文化協会顧問 毎日新聞社会福祉事業団理事 国際陶芸アカデミー会員／ペルー共和国クスコ美術学校客員名誉教授 上海芸術礼品博物館顧問／中国景德鎮陶芸博覧会編集委員／中信美術奨励基金理事
【主なパブリックコレクション】	東京国立近代美術館／京都国立近代美術館／国立国際美術館／日本藝術院 九州国立博物館／京都市美術館／滋賀県立陶芸の森／京都学・歴彩館／広島県立美術館 兵庫陶芸美術館／愛知県陶磁美術館／ボストン美術館／ボストンこども博物館 景德鎮陶磁博物館／上海芸術礼品博物館／エルミタージュ美術館／テルアビブ美術館 デ・ヤング美術館／ハーバード大学／ヴァロリス美術館／モンタルボ美術館 ピーボディ博物館／神宮美術館／神宮徴古館／東広島市立美術館／たけはら美術館 敦井美術館／呉市立美術館／法隆寺大宝蔵院／薬師寺大宝蔵殿／相国寺承天閣美術館 東寺宝物館／太宰府天満宮宝物館／蘭島閣美術館／摂津市体育館陶壁 檀原神宮崇敬館平安神宮尚美館／京都府庁／京都市役所／広島県庁／竹原市役所 東広島市役所

2. 事業の背景

(1) たけはら美術館の閉館

平成4（1992）年に開館し、芸術・文化振興の活動の場として竹原市が運営していた「たけはら美術館」では、竹原市出身の元内閣総理大臣池田勇人氏の御遺族から寄贈を受けた竹原ゆかりの美術コレクションとして、江戸後期の儒学者・頼山陽（書）の他、狩野芳崖、横山大観、川合玉堂（日本画）、藤田嗣治（素描）、安井曾太郎（油彩画）、棟方志功（水彩画）らの作品を所蔵、開館後に寄贈された今井政之（陶芸）作品を含め約400点の美術・工芸作品の展示公開を行っていました。

「たけはら美術館」が入居していた、たけはら合同ビルは施設設備の老朽化のため、令和2（2020）年3月末で休館しました。その後、たけはら合同ビルを竹原市役所新庁舎として改修するため、令和5（2023）年3月末で閉館し、たけはら美術館所蔵の作品は美術品専門倉庫等で適切に保管しています。

現在、展示公開の再開に向けては、旧竹原市役所庁舎跡地活用を含めた公共施設ゾーン再整備及び今井政之顕彰施設整備の検討において、美術作品「展示機能」の再構築を進めています。



たけはら合同ビル（たけはら美術館）



たけはら美術館での展示風景

(2) 竹原市内における今井政之の作品展示

現在竹原市では、町並み保存地区内の今井政之陶芸の館（旧光本家住宅）において、今井政之氏の「象嵌彩窯変瀬戸の幸大皿」や、今井眞正氏の「旅立つとき一若鶴一」、今井裕之氏の「さかな」といった寄託作品約40点を常設展示しています。



今井政之陶芸の館（旧光本家住宅）



今井政之陶芸の館での展示風景

(3) 今井政之作品の受納

令和5（2023）年3月6日に御逝去された今井政之氏の御遺族から、竹原市へ作品寄附の申出があり、令和5（2023）年10月～12月にかけて、専門家とともに受納候補の調査選定等を行い、12月21日に寄附受納を行いました。寄附受納にあたって、収集ビジョンを定め、作品を受納。今井政之の作陶におけるモチーフや技法などが分かる作品757点(花器・壺・大皿・花瓶・茶碗・陶板・水指等)の他、関連資料一式を寄附受納いただきました。



(4) 今井政之追悼行事の開催

今井政之氏を偲び、その功績を振り返るため、グリーンスカイホテル竹原にて、命日にあたる令和6（2024）年3月6日に追悼行事を行いました。

◆内容

- (1) 講演 テーマ「陶藝家 今井政之―挑み続けた作陶人生」
生涯陶藝家であり続けた今井政之氏の長い作陶人生をたどりながら、若き日の姿や、晩年に語ったことなど、在りし日のエピソードを交えつつその功績を振り返りました。

講師 東広島市立美術館 学芸員 大山 真季氏

- (2) トークセッション 今井 完眞氏（陶藝家）、大山 真季氏、
今榮 敏彦（竹原市長）



(5) 今井政之顕彰施設の整備に向けて

竹原市では今井政之氏の作品・資料を広く公開し、竹原市の芸術・文化振興を担う場として、今井政之氏の顕彰施設を整備する方針を固めました。貴重な作品・資料を竹原市の芸術資源、教育資源、観光資源として広く活用していくことで、郷土の偉人・今井政之の生涯と功績を後世に伝えていくとともに、郷土・竹原の魅力を発信し、学びとにぎわいを生みだす施設としての取り組みの充実を図ります。

3. 本基本構想の位置づけ

竹原市今井政之顕彰施設基本構想（以下「本基本構想」という。）は、竹原市の教育・文化行政に係る計画である「第6次竹原市総合計画」「竹原市教育大綱」「竹原市社会教育・生涯学習推進ビジョン」を上位計画として位置づけ、整合・適応を図りながら策定を進めます。

第6次竹原市総合計画 後期基本計画（令和6年3月）

【将来像2】

“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち

【目標像3】

市民一人一人が自ら学び、様々な場面で協力しながら活躍している

1 生涯学習（10年後の目指す姿）

多彩な生涯学習の場が充実し、それらを担い、推進していく人材が育っていく。

【取組の方向性】

スポーツ、芸術・文化の振興

竹原市教育大綱（令和6年3月）

【施策の柱2 生涯学習・青少年育成】

- ・多彩な生涯学習の場が充実し、それらを担い、推進していく人材が育っている
- ・青少年が健全に成長できる環境が充実している

【取組の方向性】

- ・スポーツ、芸術・文化の振興

竹原市社会教育・生涯学習推進ビジョン（令和6年4月）

【基本目標】

多彩な生涯学習の場が充実し、それらを担い、推進していく人材（コーディネーター）の育成

【基本方針】

スポーツ、芸術・文化活動の場づくり

竹原市今井政之顕彰施設基本構想

第 2 章

基本理念について

1. 基本理念

前章の事業背景を受けて、竹原市では、陶藝家今井政之の作品を展示し、今井政之の功績を顕彰する新たな施設として「（仮称）今井政之顕彰施設」（以下「新施設」という。）の整備を計画します。

新施設の基本理念は、次のとおりです。

陶藝家今井政之の 平和を希求し続けた姿と功績を広く伝え、 竹原への愛着と誇りを育むとともに、 竹原を愛する全ての人々が学び、集える施設

- ・ 郷土の偉人 今井政之の功績や作品に触れ、市民の愛着や誇りを醸成
- ・ 今井政之の生涯、平和への願いを後世に伝え、これからの生きるヒントを発見することができる場
- ・ 今井政之が少年時代を過ごし、作陶拠点・豊山窯を構えたゆかりの地ならではの学び
- ・ 今井政之の作品・資料を広く公開していくとともに、竹原市の芸術資源・教育資源・観光資源としての活用を通して、芸術家の生き方、豊かな自然環境の重要性、竹原の魅力を発信

2. 基本理念を実現する5つの機能

基本理念の実現に向けて、新施設が果たすべき5つの機能を定めました。

今井政之作品を御本人の功績とともに継承・活用していくため「顕彰展示機能」を核とし、作品の理解を深め、市内外・海外からの訪問・活用機会の増加を目指した「体験機能」「学習機能」「交流機能」「収蔵機能」を付随する機能として位置付け、事業を展開します。



1. 顕彰・展示
 - ・ 今井政之の功績を継承するとともに、市民が広く工芸美術の粋に出会う機会をつくる
 - ・ メインターゲットは、子どもを含む地域住民、陶芸ファンの観光客
2. 体験
 - ・ 体験を通して、ものづくりの楽しみや、作品表現や技法への深い理解にふれる
 - ・ ターゲットは、観光客のほか、学校団体の受け入れも視野に入れる
3. 学習
 - ・ 今井政之の作品や生き方を通して、竹原の風土への愛着や国際的な視点を養う
 - ・ メインターゲットは、地域の子どもたち
4. 交流
 - ・ 新施設ならではの体験で集客性を高め、竹原の文化観光を支える
5. 収蔵
 - ・ 作品を地域文化資産として保存・継承するとともに、調査研究を通して、資料の価値を向上する

3.事業の方向性

新施設では、基本理念とそれを実現する5つの機能を踏まえ、次の3つの事業方針に則って、ハード・ソフト両面で施設の整備と事業の充実を図っていきます。

方針1

陶藝家 今井政之の足跡と功績を知る

今井政之の功績を継承し、作品を**芸術資源**として保存・展示することを通して、今井政之の作品の普及と追究を行う発信地として活動していきます。

方針2

陶芸や自然に身近に触れ、 学びや文化のタネを育む

陶芸体験などの体験、自然へのまなざし、また、**教育資源**として今井政之の作品に様々な角度からスポットを当てることで新たな文化を生み出していきます。

方針3

世界とつながり、 地域のにぎわいを推進する

市内外・海外からの来訪客と共に新たな地域の魅力を発信する施設に。
今井政之の作品を**観光資源**として活用し、様々な機関と連携することで、まちづくりの一端を担います。

基本

基本理念

陶藝家今井政之の平和を希求し続けた姿と功績を広く伝え、
竹原への愛着と誇りを育むとともに、竹原を愛する全ての人が学び、集える施設

基本理念の詳細

- ・ 郷土の偉人 今井政之の功績や作品に触れ、市民の愛着や誇りを醸成
- ・ 今井政之の生涯、平和への願いを後世に伝え、これからの生きるヒントを発見
- ・ 今井政之が少年時代を過ごし、作陶拠点・豊山窯を構えたゆかりの地での学び
- ・ 今井政之の作品・資料を広く公開していくとともに、竹原市の芸術資源・教育資源を活用を通して、芸術家の生き方、豊かな自然環境の重要性、竹原の魅力を発信

基本理念を実現するための5つの機能

顕彰・展示

今井政之の功績を継承するとともに、市民が広く工芸美術の粋に出会う機会をつくる

体験

体験を通して、ものづくりの楽しみや、作品表現や技法への深い理解に触れる

学習

今井政之の作品や生き方を通して、竹原の風土への愛着や国際的な視点を養う

交流

新施設ならではの体験で集客性を高め、竹原の文化観光を支える

収蔵

作品を地域文化資産として保存・継承する調査研究を通して、資料の価値を向上させる

見することができる場
が
育資源・観光資源としての
言

事業の方向性

1. 陶藝家 今井政之の足跡と功績を知る

今井政之の功績を継承し、作品を**芸術資源**として保存・展示することを通して、今井政之の作品の普及と追究を行う発信地として活動していきます。

2. 陶芸や自然に身近に触れ、文化や学びのタネを育む

陶芸体験などの体験、自然へのまなざし、また、**教育資源**として今井政之の作品に様々な角度からスポットを当てることで新たな文化を生み出していきます。

3. 世界とつながり、地域のにぎわいを推進する

市内外・海外からの来訪者と共に新たな地域の魅力を発信する施設に。

今井政之の作品を**観光資源**として活用し、様々な機関と連携することで、まちづくりの一端を担います。

第 3 章

事業計画（案）

■事業計画（案）について

本章で述べる方向性に応じた事業計画は、事業の方向性を検討していく上での基本構想段階での試案となります。この内容は、今後の計画・設計・整備と進行していくにあたってより詳細な検討を行うとともに、柔軟な調整を進めてまいります。

1. 陶藝家 今井政之の足跡と功績を知る

（1）陶芸という工芸美術・ものづくりにかけた情熱を伝える

顕彰展示

収蔵

学習

独自の技法と表現で「土」を追求し続けた今井政之を、偉業を成し遂げた人物としてだけでなく、ものづくりに没頭した一人の人間の情熱を伝えることをテーマに、作品や足跡の顕彰展示を行います。



具体的な取組例：足跡・功績展示、表現技法展示、年代別作品展示、豊山窯と連携した文化体験など

（2）国際的な視点・平和への想いを養う

顕彰展示

学習

交流

市の芸術・文化への尽力をはじめ、海外での日本陶芸の親善・発信にも積極的であり、広島という地から平和を希求し続けた今井政之の視点と想いを具現化する展示と取組を通して、国際的な視点と平和への想いを養います。



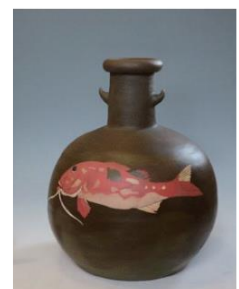
具体的な取組例：関連作品展示、国内外のアーティストとの共同企画展、多言語ガイド、国際交流をはじめとした平和希求活動 など

（3）今井政之の作品・資料を受け継ぎ、価値を高める

顕彰展示

収蔵

作品を芸術資源として保存・継承し、調査研究を通して、資料価値の向上に努めます。また、学芸員による研究成果の蓄積を基礎とした多様なテーマの企画活動を通して、陶芸・現代工芸への幅広い関心喚起や芸術リテラシーの発展を図ります。



具体的な取組例：作品の収蔵と調査研究、適切な保存体制の構築、デジタルアーカイブの構築と情報公開、「普及」と「追求」をテーマとしたテーマ型企画展、学芸員の研究力向上に向けた研修派遣、他機関との研究ネットワーク構築 など

2. 陶芸や自然に身近に触れ、文化や学びのタネを育む

(1) 土に触れ、探究する

顕彰展示

体験

学習

「土」の無限の可能性を伝える表現技法の展示とともに、実際に土に触れるものづくり体験を通して、芸術への理解と奥深さを体感してもらえる機能を設置します。インプットとアウトプット、学習と体験の双方を体現できる施設を目指します。



具体的な取組例：陶芸体験・教室、独自の陶芸技法の展示、教育プログラムへの参画と教育支援など

(2) アート⇄自然のまなざしを育む

体験

学習

交流

今井政之をはじめ、多くの芸術家が自然からインスピレーションを受けたように、自然への観察眼や表現力を養う展示や、景勝を活かした施設空間を通して、美的体験を提供します。

具体的な取組例：瀬戸内の景観やモチーフを活かした体験型展示、制作過程展示、自然観察＋陶芸体験 など

(3) 陶芸の魅力をふくらませる

体験

収蔵

陶芸の魅力を固定して発信するのではなく、常に様々な方向からスポットを当てることで、魅力を自ら「発見」してもらえる施設とします。実用の食器を使った飲食空間の併設や、今井政之の作品を活用した市民参画の展示などを想定しています。

具体的な取組例：豊山窯茶室と連携した茶文化体験、市民参加型展示、飲食機能の併設と陶芸作品の使用体験 など

3. 世界とつながり、地域のにぎわいを推進する

(1) 多様な来訪客との交流で生み出す、地域の愛着と誇り

学習

交流

市内外・国内外からの来訪客に向けて、竹原の魅力の発信を行うとともに、地域住民や来訪客との交流を通して、多様な視点から地域の愛着・誇りを再発見していく場をつくります。



具体的な取組例：竹原の歴史や景勝になぞらえた展示、芸術祭等イベントと連携した事業の検討など

(2) 市民参画による新たな公共性と、地域文化の醸成

体験

学習

交流

来館のきっかけづくりや、市民が活動に参画しやすい仕組みを整え、地域の人々が日常的に集い愛される施設を目指すことで、新たな公共性と地域文化の醸成に取り組みます。

具体的な取組例：ボランティアやサポーター制度の導入、飲食出店、施設のバリアフリー化など

(3) 豊山窯をはじめ、地域連携のハブに

体験

交流

豊山窯をはじめ、他施設との連携や宿泊を含む観光連携に取り組み、竹原の魅力をつなぎ、高めていくハブ的機能を担い、芸術・文化のみならず地域発展を推進します。



具体的な取組例：市内他施設との連携、市内観光名所の情報発信 など

第 4 章

施設計画

1. 立地の検討

(1) 候補地について

今井政之顕彰施設の候補地については、施設の基本理念や基本理念を実現する5つの機能を踏まえ、市内の公共施設用地のうち、教育委員会として、廃校となっている学校や、今後廃校となる学校跡地等も含めて検討しました。

学校の跡地については、学校施設として建てられた校舎の建物は転用することが難しいことや、解体して整備することを考えた場合に解体費用が多額となること等から、①豊山窯周辺（私有地・所有者から寄附の意向をいただいている）、②町並み保存地区周辺（市有地）、③竹原市町並み保存センター（市有地）の3カ所を現状考えられる候補地として、土地・交通・周辺環境等の項目により評価を行いました。

※本構想書における各候補地の災害時被害想定については、竹原市防災ハザードマップ（令和6年6月改訂、<https://takehara.mapweb.jp/webmap/>）を参照しています。

■候補地立地図



(ア)

候補地①豊山窯周辺



用途地域：無指定地域

容積率：400%

建蔽率：70%

高さ制限：—

宅地造成工事規制区域

土砂災害警戒区域（土石流）

土砂災害警戒区域（急傾斜地）

土砂災害特別警戒区域（急傾斜地）

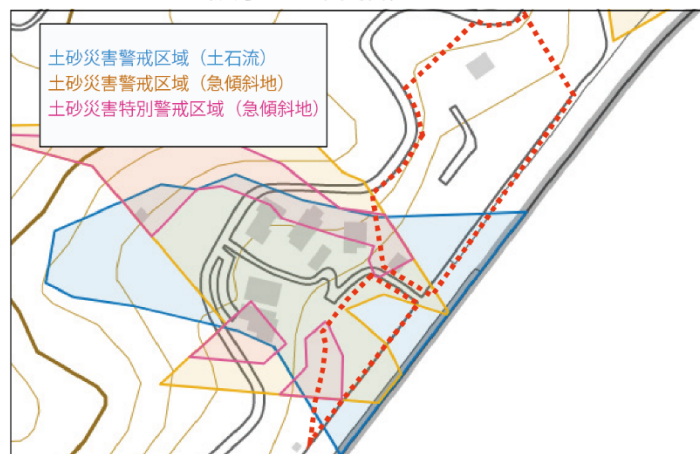
洪水浸水想定：—

高潮浸水想定：約 1.3m

津波浸水想定：—

内水浸水想定：—

ハザードマップ（洪水・土砂災害）

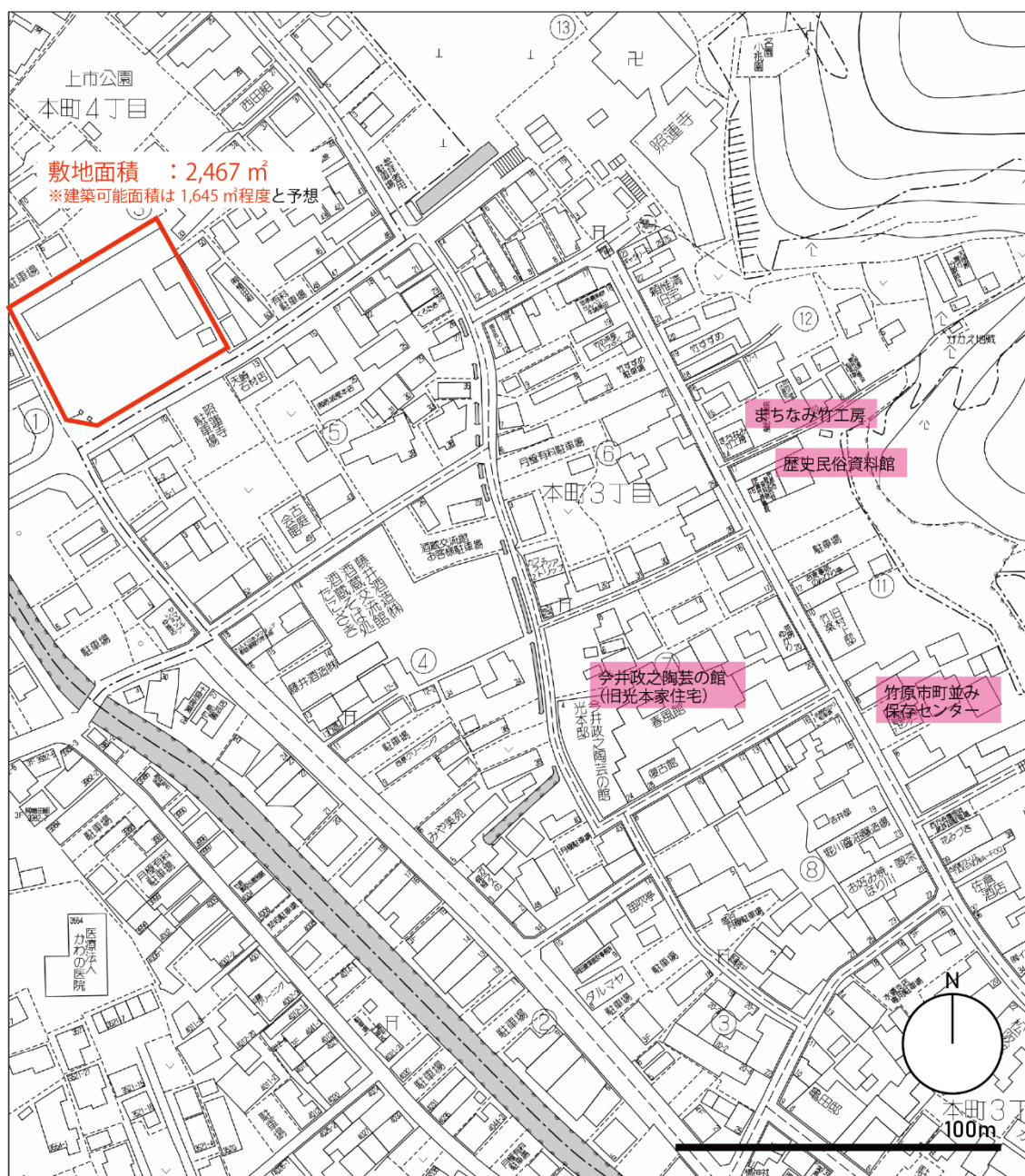


■候補地①の評価

大項目	小項目	コメント	評価
土地	形状	・敷地面積は広いが敷地内に高低差があり、施設利用可能な土地の形状は道路に面して細長い形状となる ・敷地内南北の道路を維持する必要がある	○
	面積	・敷地面積は広いが敷地内に高低差があり、土砂災害警戒区域等のハザードエリアを考慮すると建物の配置に制約がある	○
	建築規模	・敷地面積:約3,825m ² ※敷地面積には一部山林などが含まれ、建築可能な有効面積は1800m ² 程度と予想される ・建築可能面積:最大1,800 m ² 延床面積:5,400 m ² 程度 ※容積率・建ぺい率・その他与件から算出した目安数値であり、今後測量等による詳細な土地調査が必要 ※山林部を用いて建築面積を広げる場合、土地造成や複館構成での検討を行う必要あり	○
交通	幅員	・国道185号に接道しており、車両・大型バス・搬出入トラックの入構が容易	◎
	導線	・国道沿いのため、車でのアクセスが容易 ・駐車場の新設検討可能 ・ピースリーホームバンブー総合公園大型駐車場まで徒歩22分、大型バスも複数台駐車可能	○
	公共交通など	・JR竹原駅よりタクシーで約7分、バスで約14分、徒歩で約44分 ・バスの増便やシャトルバスの設置なども併せて検討が必要	△
周辺環境	景観	・今井政之氏の作陶拠点である豊山窯に隣接、作品作りに大きく関わりのある瀬戸内海の自然豊かな眺望を展示の一環に活用可能	◎
	周辺施設	・豊山窯と連携した活動プランや展示が可能(登窯や茶室活用など) ・飲食施設などを併設し、滞在時間を伸ばすことで、竹原観光の新拠点として期待できる	◎
その他	ハザード	・土砂災害警戒区域(土石流・急傾斜地) ・土砂災害特別警戒区域(急傾斜地) ・高潮浸水想定:約 1.3m ・ハザードエリアを考慮した建物配置が求められる	△

(イ)

候補地②町並み保存地区周辺(竹原市立竹原西幼稚園跡)



用途地域：第一種住居地域
容積率：200%
建蔽率：60% (角地緩和 70%)
高さ制限：
洪水浸水想定：約 1.5m
高潮浸水想定：約 3.7m
津波浸水想定：約 0.3m
内水浸水想定：約 0.5m

ハザードマップ (洪水・土砂災害)

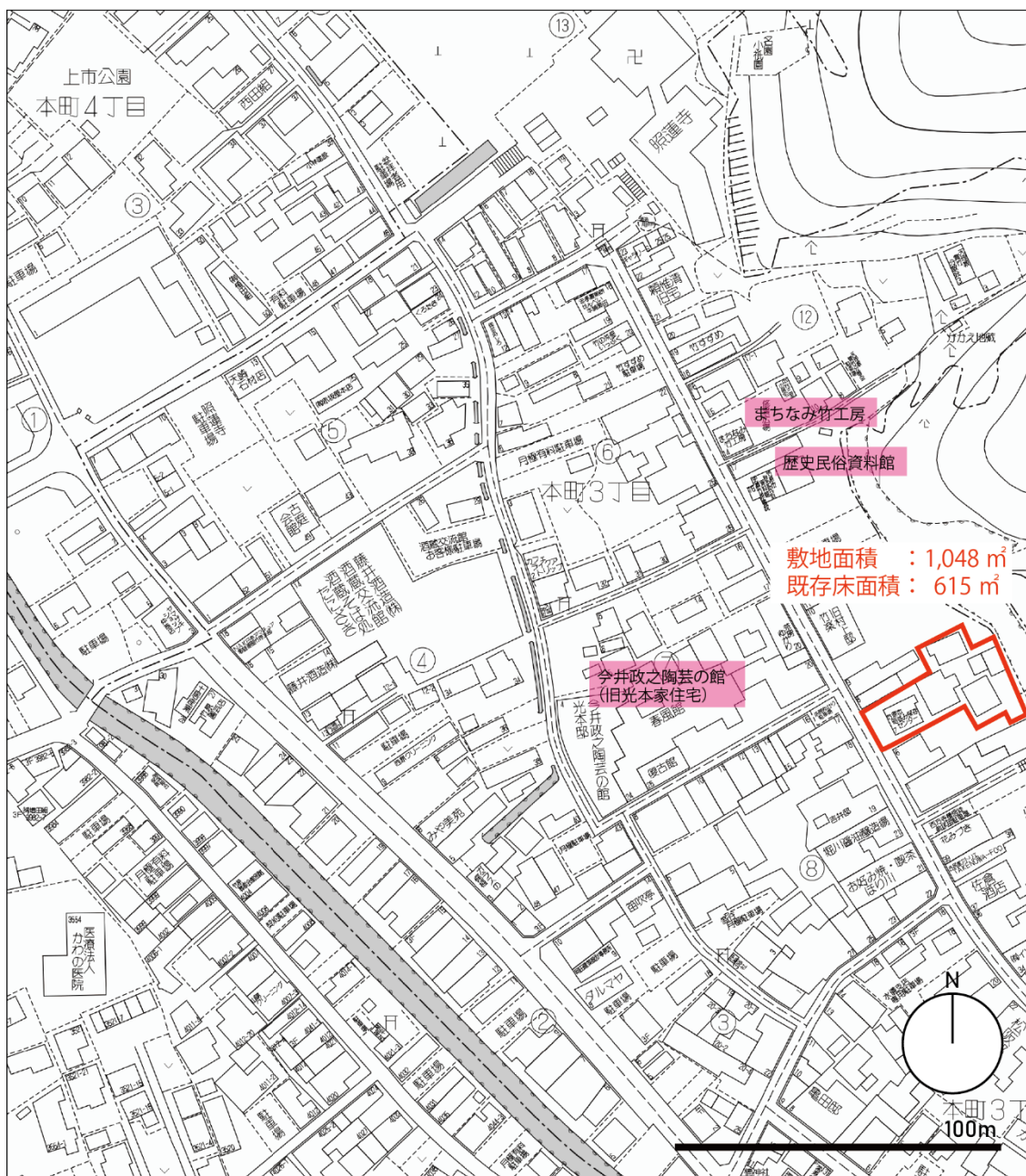


■候補地②の評価

大項目	小項目	コメント	評価
土地	形状	・ 整形であり建物の配置を行ない易い ・ 整地が行なわれており利用し易い	◎
	面積	・ 有効に利用可能な面積が広く、用途などの制約が少ない ・ 都市計画道路に干渉するため、一部道路 拡幅が必要 (敷地面積100 m²程度減)	○
	建築規模	・ 敷地面積:2,367 m² ※現状の 2,647 m²から道路拡幅により 100 m²減 ・ 日影規制の影響を受けるため、建物高は10m以下、地上2階建て程度 ・ 建築可能面積:最大1,645m² 延床面積:最大3,300 m²程度 ※容積率・建ぺい率・その他与件から算出した目安数値であり、今後測量等による詳細な土地調査が必要	○
交通	幅員	・ 狭隘であるが2面道路に面している ・ 南西に接続する道路は2車線で車での通行に十分な幅員を有する ・ 一部道路拡幅が必要	○
	導線	・ 南西に接続する道路は国道432号とつながり、車でのアクセスも可能 ・ 駐車場の新設検討可能 ・ 新田市宮駐車場まで徒歩6分、道の駅たけはら大型バス駐車場まで徒歩9分	○
	公共交通など	・ JR竹原駅よりタクシーで約5分、バスで約8分、徒歩で約15分	○
周辺環境	景観	・ 土地の一部が景観条例の重点地区に入っているが、町並み保存地区の範囲外であり、住宅地の中にあることからやや趣きに欠ける	△
	周辺施設	・ 町並み保存地区に近いことから、周辺施設との相乗効果が期待できる ・ 観光の中心であり、既存の観光ルートと合わせて立ち寄りやすい	○
その他	ハザード	・ 洪水浸水想定:約 1.5m ・ 高潮浸水想定:約 3.7m ・ 過去の豪雨水害時に水没浸水被害を受けており、盛土などの対策が必要	△

(ウ)

候補地③ 竹原市町並み保存センター(既存活用)



用途地域：第一種住居地域

容積率：200%

建蔽率：60%

高さ制限：— ※既存施設活用の為該当無

竹原地区伝統的建造物群保存地区

寺山風致地区

宅地造成工事規制区域

土砂災害警戒区域（土石流）

土砂災害警戒区域（急傾斜地）

土砂災害特別警戒区域（急傾斜地）

洪水浸水想定：—

高潮浸水想定：約 2.5m

津波浸水想定：—

内水浸水想定：—

ハザードマップ（洪水・土砂災害）



■候補地③の評価

大項目	小項目	コメント	評価
土地	形状	・既存施設の活用	－
	面積	・既存施設の活用によるため、他の候補地と比較し施設面積が小さく、新築増築を行うことも難しい	△
	建築規模	・本館床面積:615 m² ・建物規模が小さく、展示・収蔵・体験など多様な活動への対応が難しい ・本館のみ新耐震基準に適合。ただし、木材を利用している窓枠等の腐食が進む、破損し開閉ができない屋外ドアがあるなど、建物・設備の劣化・老朽化が顕著。大規模な改修が必須。	×
交通	幅員	・前面道路の幅員が狭い ・公用車や搬出入トラックの出入りが出来ないため、運用性に問題がある	×
	導線	・前面道路の幅員が狭く、車での直接アクセスが難しい ・敷地内の駐車場の新設検討不可 ・新田市宮駐車場まで徒歩6分、道の駅たけはら大型バス駐車場まで徒歩6分	×
	公共交通など	・JR竹原駅よりタクシーで約5分、バスで約12分、徒歩で約15分	○
周辺環境	景観	・町並み保存地区内に位置することから、町並みと一体的な趣のある施設計画が可能	○
	周辺施設	・町並み保存地区内に位置することから、周辺施設との相乗効果が期待できる	○
その他	ハザード	・土砂災害特別警戒区域（急傾斜地） ・土砂災害警戒区域（土石流・急傾斜地） ・高潮浸水想定:約 2.5m ・既存活用のため、配置変更や新築不可	×

①**豊山窯周辺**：四方を自然に囲まれた立地から自然をモチーフとする立地であり、今井政之の作陶人生を追体験できる場所として他の候補地にはない特徴を持ちます。豊山窯との一体的な施設利用も可能であり、施設間の相乗効果が期待できます。また、国道沿いに立地するため、大型バスや乗用車を利用したアクセスも容易です。一方、土地の一部が土砂災害警戒区域（土石流）、土砂災害警戒区域（急傾斜地）に該当することなどから、施設配置の際に注意が必要となります。

②**町並み保存地区周辺(竹原市立竹原西幼稚園跡)**：土地が整形であり配置や用途・面積などの制限が少なく、また、接道条件やアクセスも良好です。隣接した町並み保存地区との連携による相乗効果は期待できます。一方、豊山窯と離れており一体的な利用が難しいことや、他候補地よりも洪水や高潮時の浸水深が高いことが懸念されます。

③**町並み保存センター**：町並み保存地区内に位置することから、趣のある施設計画が可能であり、地区内のお施設との連携による波及効果が期待できます。一方、既存施設の活用であることから、面積や平面形状などの面で利用に大きな制限があります。また、建物や設備の劣化・老朽化が進んでおり、大幅な改修工事が必要となると考えられることや、敷地全域が土砂災害警戒区域（土石流）、土砂災害警戒区域（急傾斜地）に該当していることから、利用については慎重な検討が必要となります。更に豊山窯と離れており一体的な利用が難しいこと等もマイナス評価として挙げられます。

評価項目		各候補地の評価		
		候補地① 豊山窯周辺	候補地② 町並み保存地区周辺 (竹原市立 竹原西幼稚園跡)	候補地③ 町並み保存センター
土地	形状	○	◎	—
	面積	○	○	△
	建築規模	○	○	×
交通	幅員	◎	○	×
	導線	○	○	×
	公共交通など	△	○	○
周辺環境	景観	◎	○	○
	周辺施設	◎	○	○
その他	ハザード	△	△	×

(2) 竹原市今井政之顕彰施設基本構想策定委員会における審議意見

令和6（2024）年11月6日に開催された第2回竹原市今井政之顕彰施設基本構想策定委員会において、候補地①～③の比較に基づき施設立地に関する審議を行いました。

■主な意見

- 記念事業として他館からの借用を含めた企画展を催す際などに、美術品専用車（一般的に4tトラック）の進入・搬入できる動線を確保した方が良い。
- 駅からのアクセスが大事だが、候補地①豊山窯周辺はバスが難しいということであっても車で7分程度なら、タクシーで行こうと考えやすく、大きな抵抗感はない。
- 収蔵庫を整備する際に、資料の保護を考えると、例えば洪水ハザードがかかってくると、おそらく全ての建物を持ち上げることになる。
- 候補地②・③は、町並み保存地区との連携が良くなるので、町並み保存地区に来る人へのプラスアルファという意味では、竹原の観光として強化するという狙いもわかる。ただ、竹原のもう一つ新しい魅力を作るんだというイメージで考えると、海沿いは魅力的。竹原の観光は海沿いを活かしてない。瀬戸内を感じるのは港から、もしくは大久野島くらいしかないなということで、海の景色を見てもらうだけでも候補地①にある意味が出てきそう。
- 他の美術館にはない特色として、現役で今井政之が使われていた窯があること。過去の遺産ではなく、ある意味生きた遺産が間近にあるというのが他の美術館と差別化できる。
- 生きた窯があるということが大きい。候補地①豊山窯周辺が一番施設の方向性に合っている。
- 候補地①豊山窯周辺は海が見える。海を活かした立地が他と比べて優れている。
- 豊山窯との連携により、包括的に幅広いイベントが実施できる。
- 飲食機能は集客・施設の満足度としても非常に重要で取り入れるべき要素であり、景観に優れた立地であることは観光集客の面で魅力的である。また、今井政之の作陶への理解や追体験を行ううえでも候補地①豊山窯周辺の景観は重要である。

審議においては、今井政之の作陶背景をより深く理解し顕彰するための場所性に優れている点、体験や飲食を含めて竹原観光の新たな拠点として期待できる点などが評価され、作陶拠点であった豊山窯に近く、瀬戸内海への景観に優れた候補地①豊山窯周辺が望ましいという意見が多くありました。

一方で、候補地①の活用にあたっては、敷地の一部が土砂災害警戒区域に該当すること、沿岸部であることから塩害・高潮・強風への対策、また、豊山窯の作陶・生活環境への影響や連携手法について十分に協議する必要があることが提言されました。

(3) 新施設整備予定地の選定と施設計画に向けた検討課題

(ア) 新施設整備予定地の選定について

前項までの候補地比較と策定委員会における審議意見を踏まえ、今井政之の作陶拠点としていた現役の窯があり、今井政之の作陶人生を追体験でき、また、瀬戸内海の景観を活かすことのできる立地である候補地①豊山窯周辺を施設の基本理念を実現できる新施設整備予定地とします。また、今後の土地調査・設計の段階においては、策定委員会でも挙げられた立地課題等（次項（イ）で示す現在想定される配慮事項とリスク対策）に十分に配慮した施設計画の策定及び対策整備を進めていきます

(イ) 新施設整備予定地の具体的な検討に向けて

今後の施設計画・建築設計を進めていくに当たっては、新施設整備予定地の敷地測量及び土地の地質・地盤調査が必要になります。詳細な土地調査の結果に基づき、作品・来館者等の安全性に十分配慮した施設計画・設備計画・運営計画の具体的な検討を進めていきます。

なお、新施設整備予定地である候補地①豊山窯周辺の活用にあたって、現在想定される配慮事項とリスク対策は次のとおりです。

■主な配慮事項とリスク対策

- 土砂災害警戒区域（土石流・急傾斜地）
 - ・警戒区域を避けた収蔵庫・展示室配置
 - ・災害発生時の避難誘導計画の策定
- 沿岸部に立地（塩害・高潮・強風など）
 - ・金属製建具や外装材、二次部材への耐塩害仕様の採用
 - ・空調フィルター等による紙資料などデリケートな資料の保存環境の清浄化
 - ・止水版など建築内部への浸水防止策の実施
 - ・強風を想定した建築部材等（ガラスや庇等）の耐風圧計算
 - ・杭や地盤改良による地盤強化策 ※要地盤調査

施設計画・建築設計の詳細化に至っては次の点に十分留意し、検討していきます。

①周辺環境との調和

用地周辺の自然景観・環境に配慮し、一体感が感じられるとともに気軽に立ち寄りやすい動線・環境整備や施設デザインを行います。また、隣接私有地への無断立ち入りを防ぐ用地境界の明確化、渋滞や騒音の緩和策など、周辺住民の生活環境への影響を十分に考慮した施設配置計画を行います。

②ユニバーサルデザイン

不特定多数の来館者を迎える文化施設として、ユニバーサルデザインを取り入れた施設設備の設計を行います。広島県福祉のまちづくり条例に基づく、「福祉のまちづくり整備マニュアル」をガイドラインとしながら、通路などへのスロープや手すりの設置、認識しやすいサイン計画、トイレの設置（多目的トイレ・ベビールームなど含む）など、年齢やハンディキャップに問わず利用しやすい施設を目指します。

③防災・減災

資料の保存と利用者の安全確保を第一として、用地の環境条件を踏まえた防災対策を行います。耐火性及び耐震性に優れた構造の採用のほか、水害・土砂崩れ等においては、用地のハザードマップ情報や近年の被害実績等を踏まえて、資料保護や人員避難に適切な施設ゾーニングの設定や盛り土・止水設備などの導入を検討します。

④環境負荷の軽減

施設全体の省エネルギー化のほか、太陽光発電や雨水の利用などを検討し、環境負荷の軽減を目指します。

⑤整備コスト・ランニングコスト軽減

施設の整備にあたり、合理的・効率的な構造・仕様となるよう建築設計の段階で十分に検討を行います。また、開館後の運営や維持管理にかかるランニングコストの低減を目指して、施設の長寿命化や修繕補修費の負担の少ない材質・設備を採用する計画とします。

2. 想定される諸室機能

■必要諸室と施設ゾーンの設定（案）

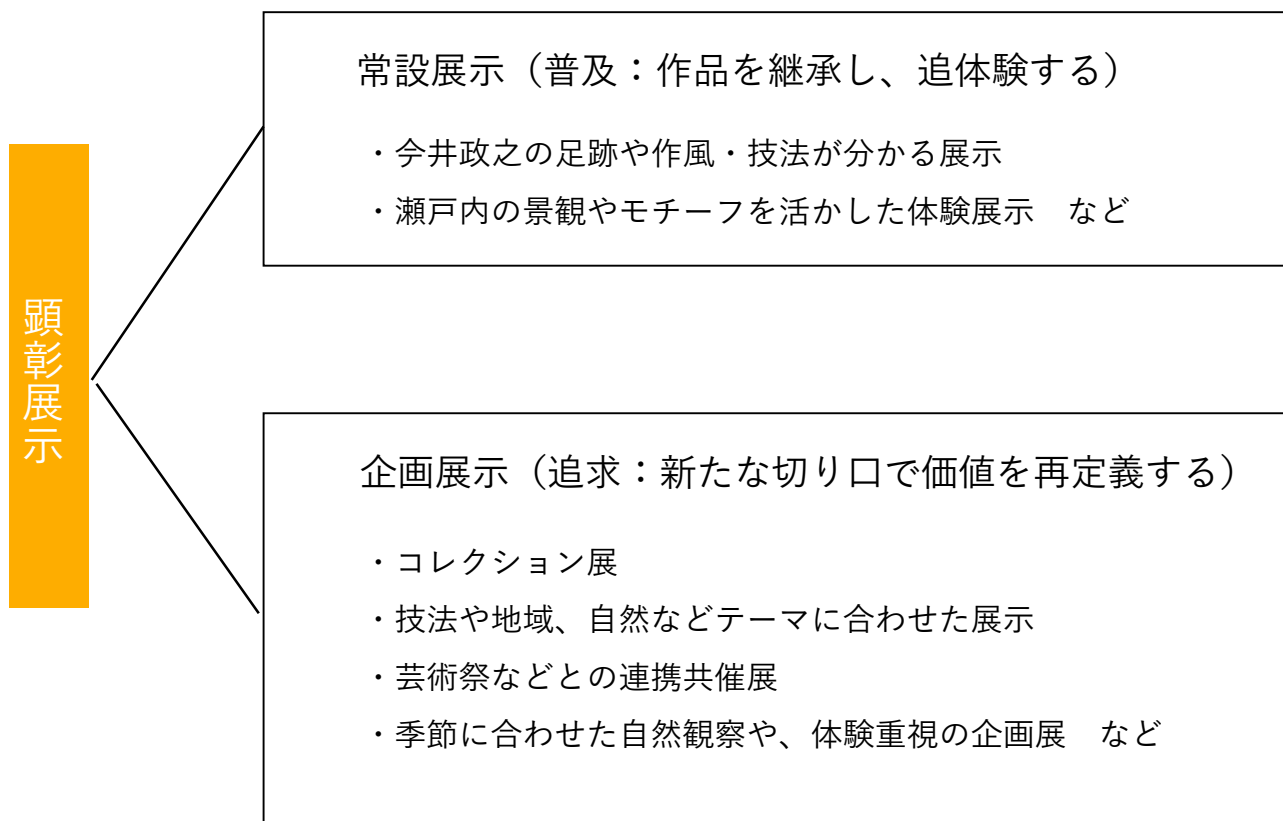
エリア	室名	内容
展示ゾーン	展示室	今井政之に関する顕彰・作品展示のほか、陶芸の制作過程や技法などの技術を伝える展示を行う
体験ゾーン	体験ルーム	絵付けや陶芸などの体験活動が可能な設備を備えるスペース
	体験準備室	体験活動の資材ストック、体験作品の一時保管スペース 小型電気窯の設置を検討する。
交流ゾーン (一般共用部 含む)	エントランス	受付・券売、交流ホワイエ、ショップなど
	地域情報コーナー	市内観光や地域情報の発信を行うスペース
	飲食機能	カフェ等飲食物の提供を行うスペース
	トイレ	多目的トイレを含む
	授乳室・ベビールーム	個室対応、または、男性保護者入室可/女性専用の2室対応を検討
収蔵ゾーン	収蔵庫	前室を含む、所蔵資料の保管スペース
	搬入口・荷解室	トラックヤードを含む
研究・管理 ゾーン	事務室	運営・管理の日常業務スペース
	研究作業室	資料調査・撮影・展示準備などを行う学芸業務スペース
	書庫・資料室	学芸資料や定期刊行物などを保管するスペース
	トイレなど	職員用トイレ、職員更衣室、救護室など
その他	設備・共用部	機械室・電気室・防災機械室・警備員室・清掃員控室・階段・EVなど
	駐車場・駐輪場	乗用車・大型バスの停車

3. 展示の方向性（案）

展示ゾーンでは、常設展示・企画展示の2つの展示活動の展開を想定しています。

常設展示では「普及」をコンセプトに、「陶藝家・今井政之」「陶芸と自然」などのテーマを扱います。企画展示では「追求」をコンセプトとし、収蔵資料である今井政之の作品コレクションを中心に、今井政之の功績や、陶芸・現代工芸の楽しみ方や魅力に光を当てる多様なテーマ設定での企画展を企画・開催します。

各展示の方向性や想定されるテーマ・手法は次のとおりです。



常設展示では、作品展示を中心としながら今井政之の生涯とその思想を伝えるとともに、陶藝家の視点を追体験するような展示を取り入れながら、焼き物の技法や地域の自然の見方・向き合い方と出会える展示を行います。

テーマ案1 陶藝家・今井政之

今井政之の足跡・功績・ものづくりの情熱を来館者に伝えることを目的に、鑑賞型の作品展示を主軸に今井政之の作陶人生の歩みとエピソードを取り上げた展示を行います。

手法①：今井政之氏の足跡を伝える作品展示

今井政之の作品を時代や技法ごとに展示・紹介する展示を検討します。作品の背景にあるエピソードを解説で補完しながら、自然への憧憬や平和希求・国際交流への想いなど今井政之が作品に込めた人間性が伝わる展示に努めます。

手法②：完成までの工程や技法が分かる体験展示

今井政之が開発した陶芸技法や、作品の制作工程が分かる展示展開を検討します。工程を見せる映像コンテンツや、土などの素材や乾燥後の状態に触れる体験など五感を通した手法で、今井政之が追究し今も陶芸界に受け継がれる優れた技術を伝えます。

手法③：レプリカを活用した体験展示

気軽に触れられるレプリカ等を活用し、茶道具や花器、食器として実際に使用してみるような、作品の観察と理解促進を促す体験機会の提供を検討します。

テーマ案2 陶芸と自然

今井政之の作品に影響を与えた竹原の景勝地や文化・歴史を作品とともに紹介する体験型の展示を行います。

・竹原・瀬戸内海の自然から受けたインスピレーションを追体験する展示

竹原・瀬戸内海の自然や生物を観察し、そこから受けたインスピレーションを作品に昇華した今井政之の「自然と対話する」制作プロセスを追体験できる展示を検討します。

作品のモチーフを細部まで観察できる360° VR映像を駆使したデジタルコンテンツ等、今井政之の観察眼や造形力をより実感できる手法を取り入れます。

企画展示では、様々な切り口から、今井政之の作品や陶芸文化に光を当て直し、来館者の多様な関心を生み出す場を提供します。

また、企画展示にかかわる研究や連携活動を進める中で生まれた成果やノウハウを蓄積を通して、今井政之の作品の価値の追求に努めます。

【企画テーマ（案）】

コレクション展	収蔵資料である今井政之の作品を中心に、テーマごとに作品を入れ替え、新たな切り口を模索することで展示の更新性を意識し、リピートを生む展示活動を行います。
今井政之にゆかりのある 他の作家や地域に関する展示	今井政之と親交の深い陶芸作家・芸術家との関係性をテーマとした展示や、今井政之の修行・作陶の場であった京都や備前などの他地域・窯元に関する展示を企画します。
技法や地域、自然などテーマに合わせた展示	常設展示とは別に、技法や地域、モチーフとなった生物や自然などに編集し直した展示を行います。
芸術祭や現代アーティストとの 連携共催展	「広島竹原芸術祭」など他の芸術文化事業との連携共催展を行うことで、より広いターゲットへの今井政之の作品訴求とともに、次世代の芸術家育成の支援を行います。
季節に合わせた自然観察や、 体験重視の企画展	竹原の景勝を活かし、季節ごとに自然や生物観察を取り入れた展示や、テーマごとに設定した体験重視の企画展を企画・開催します。

4. 資料収集・保存の考え方

収蔵計画の具体化及び資料の取扱いに当たっては次の点に十分留意し、検討していきます。

①合理的な施設計画

搬入口から収蔵庫、展示室へと至る資料の搬出入動線を確保するとともに、来館者動線と明確に区分することで防災面・防犯面に配慮した施設ゾーニングを行います。

②適切な収蔵環境・安全性の確保

収蔵庫内の環境は陶磁器資料を保管するために十分な温湿度を維持できる空調設備環境を取り入れるとともに、資料の破損を防ぐため、収蔵棚に固定措置や防護ネットを施すなど、転倒・落下の防止を徹底します。展示室においても、免震ケース・免震台の導入を検討するなど、転倒・落下による破損防止に留意します。

防火・防災対策として、防火区画の形成・適切な消火システムの選定を行うとともに、浸水や土砂崩れなど立地環境に合わせて多様な災害の発生を想定・配慮した施設配置・設備計画を行います。

③将来的な所蔵資料増加を想定した十分な収蔵面積の確保

収蔵庫の面積としては、寄附受納を受けた作品・資料を集約可能な面積の確保を前提とするとともに、将来的な資料収集・受入れを想定して、可能な限りの余剰スペースを持つことを検討します。

④日常的な施設点検・メンテナンス計画

継続的な日常点検を行いやすい施設設備を設計段階から十分に意識します。

文化財への害虫・カビなどの生物被害防止を目的に、日常的な清掃・点検、温湿度管理や薬剤を用いた防除などを行う文化財IPM（総合的有害生物管理手法）の考え方を前提とした施設計画を行います。

第 5 章

管理・運営計画

1. 運営手法

(1) 管理・運営の考え方

新施設の管理運営に当たっては、官民連携を含めた運営の仕組みづくりを想定します。新施設の活動形態等に合わせ、計画・設計と並行しながら管理運営の詳細方針について検討を進めていきます。

一方で、現在、竹原市では美術分野学芸員を採用しました。新施設の基幹業務となる今井政之の寄附作品及び関連資料の収蔵や調査研究、展示公開企画などの学芸部門は直営で担うことを前提に、官民連携については、よりよい利用者サービスの提供、効率の良い維持管理を行ううえでのメリット・デメリットを判断しながら検討していきます。

■管理運営における官民連携手法

	公営（直営方式）	官民連携	
		市が学芸業務を直営し、来館者対応や維持管理、広報に関する事務的業務を民間事業者が行う。	施設事業の方針決定を市が行ううえで、事業活動や施設維持管理を民間事業者が一元的に行う。
基幹業務 (収蔵・研究/ 展示公開企画)	市	市	民間事業者
体験・交流・ 広報など	市	民間事業者	民間事業者
来館者対応 維持管理	市 (清掃など一部業務を 民間委託する場合もあり)	民間事業者	民間事業者
メリット	- 市の方針を運営に反映しやすく、事業の継続性が担保される。 - 基幹事業の安定性が高く、他の研究機関や博物館施設などとの連携を行う上での信用協力を受けやすい。	- 継続的な資料・情報管理、ノウハウ蓄積が必要となる基幹事業は直営とすることで、専門性を担保し、博物館の考えや他館との連携を踏まえた運営ができる。 - 民間の集客ノウハウを活かした広報、利用者サービスの充実など見込める。	民間ノウハウや創意工夫により、体験プログラム等の教育普及活動や広報、利用者サービスの充実が見込める。
デメリット	柔軟な運営がしにくい。	- 直営による基幹事業と民間事業者による業務の密な連携が求められる。 - 民間ノウハウを活用できる事業範囲が限られている。 - 柔軟な運営がしにくい。	- 市所有資料等の管理を行うに当たっての責任や補償担保リスクが大きく、厳密な管理仕様の設定が必要。 - 長期的なノウハウ蓄積が必要な基幹事業を行う上で、安定性の担保が難しい。 - 市の方針反映や、他の市施設や庁内との連携が図りにくい。

(2) 管理運営体制（案）

新施設の管理運営に当たっては、官民連携手法の導入が想定されます。新施設の活動形態等に合わせて、計画・設計と並行して管理運営の詳細方針について検討を進めていきます。

【館長】

- ・館の業務の全体責任者として、総合的に活動をマネジメントできる人材を配置する。

【学芸部門】

- ・美術・工芸分野の高い専門性を持ち、適切な資料の収集・保管、研究調査、展示企画に対応できる専門職員を配置する。
- ・収蔵資料の調査研究及び収蔵環境管理、資料台帳（デジタルアーカイブ）の管理を行う。
- ・研究成果を基に、展示公開（顕彰・学習）を中心とした施設の事業活動を企画・推進する。また、他館・他研究機関とのネットワーク形成に努め、調査研究及び展示企画に活かす。
- ・専門的見地から館内の環境維持・文化財IPM計画を推進する。

【運営企画部門】

- ・体験事業、学習事業、交流事業、施設の広報をマネジメントする職員を配置する。
- ・学芸部門と連携し、体験・学習プログラムの企画・運営、学校や他機関と連携した活動の推進を担う。

【管理部門】

- ・庶務、予算管理・経理、労務管理や施設全体の企画調整を担当する総務部門として、事務職員を配置する。
- ・企画調整、広報業務等については、学芸部門・運営企画部門職員と連携をして業務にあたる。

2. 収蔵及び資料管理体制（案）

（1） 台帳による収蔵資料管理

現在、寄附受納を受けた作品757点及び関連資料一式については、竹原市内で分散して収蔵されている状態であり、選定調査時の情報を基に資料台帳を作成し、資料の所在把握や環境管理を行っています。

新施設開館後は、今井政之の作品を施設内の収蔵庫で集約管理するとともに、新規の収集資料についても対応できるよう、整理項目を見直し、引き続き台帳管理を行い、収蔵・研究活動に活かしていきます。

◎現在の台帳管理対象：今井政之の作品のみ

【整理項目】

- ・ 作者名・生没年・作品名
- ・ 制作年・材質技法・形状
- ・ モチーフ・寸法・収蔵場所

※サムネイル画像として調査時撮影画像あり

◎新規収集を想定した管理対象：今井政之の作品

+ 関連する他作家の作品、写真・映像・文書など

【整理項目】

- ・ 作者名・生没年・作品名
- ・ 制作年・材質技法・形状
- ・ モチーフ・寸法・収蔵場所



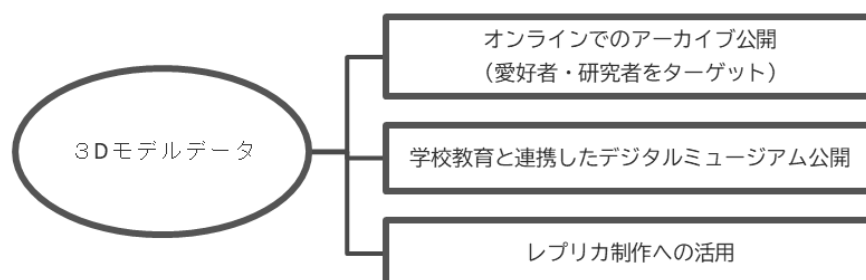
【新規整理項目（案）】

- ・ 資料分類（寄附資料/他作家資料/写真/映像など）
- ・ 資料登録日 ・ 資料状態（損傷）・ 資料の来歴
- ・ サムネイル画像や3Dデータの登録 など

（2） 収蔵資料情報の公開

資料台帳を基にした将来的なデジタルアーカイブの構築と情報公開に努めます。一般利用者や研究者などが資料検索やサムネイル画像の閲覧を可能とすることで、収蔵資料の幅広い公開や研究機会の拡大につなげます。

また、アーカイブ構築においては、高精細3Dモデルや360° 画像によるアーカイブデータの作成を検討し、作品の細部を自由に観察できる特性を活かした展示・公開への活用を目指します。



3. 収益支出の項目想定

施設の事業運営及び維持管理に係る収支として想定される項目を次のとおり整理しました。

なお、具体的な収支試算については、導入する設備や人員体制、運営手法等、現段階で未確定の要素に影響されることから、今後の詳細検討過程において行います。

収入部門	●入館料 常設展示観覧料、特別企画展示観覧料など ●自主事業収入 施設が主催する体験プログラムの提供等に係る入場料や参加費など (受益者負担の観点から原則実費程度の徴収を想定する。) ●図録・ミュージアムグッズ販売収入 企画展図録等の頒布やオリジナルグッズの頒布によって得られる収入など ●施設使用料等 体験ルーム等の貸館利用料など ●飲食交流機能テナント賃料等 飲食機能の導入に際しては、外部委託等の民間活力導入を検討し、テナント賃料を収入として設定する。 ●補助金・助成金獲得 文化庁補助事業などの公的助成や財団等の民間団体による助成への応募・獲得を検討する。 ●サポーター制度・寄付金 サポーター制度を組織する場合の会費・賛助金など
支出部門	●人件費 事業企画・運営や施設維持管理等を担うスタッフ、受付・看視業務、体験プログラム講師など人件費 ●維持管理費 光熱水費、管理業務委託費（施設清掃、警備、外構植栽管理等）保守点検委託費（エレベーター、貯水槽、火災報知器、消火設備等防災関連設備等）、設備維持管理修繕費など ●運営経費 事務費、報酬・旅費、広報費、需用費、役務費、資料購入費など ●自主事業費 企画展、イベント等開催にかかる経費、出前講座・体験プログラム開催経費、備品購入費、作品保存修復費など

4. 事業費・スケジュール

(1) 事業費

新施設の整備については、基本理念を実現する機能及び規模を確保するよう進めます。
なお、財源については、国の補助金等の活用を検討します。

(2) 事業スケジュール（仮）

内 容	
基本構想 (令和6年度)	・ 顕彰施設整備に向けた、基本理念、事業の基本的な考え方の検討
基本計画 官民連携手法の調査 (1～2年)	・ 基本理念を基にした事業活動の方針や求められる施設条件、機能の具体化 ・ 建築要件整理 ・ 官民連携の手法を調査
建築設計 展示設計 運営事業者募集 (2年程度)	・ 土地測量 ・ 建築工事及び設備工事に関わる設計 ・ 施設内装工事及び展示工事に関わる設計 ・ 運営事業者募集
建設工事 展示制作工事 (2年程度)	・ 建築工事及び設備工事 ・ 施設内装工事及び展示工事

事業スケジュールについては、今後変更する場合があります。

参考資料

■竹原市今井政之顕彰施設基本構想策定委員会

(1) 委員名簿

氏名	所属・職名
委員長 植田千佳穂	湯本豪一記念 日本妖怪博物館 三次もののけミュージアム 館長
副委員長 外館 和子	多摩美術大学 教授
土井 一秀	近畿大学工学部 建築学科 特任教授
沖本 太	竹原市教育委員会教育次長

※任期：令和6年8月22日～令和7年2月28日まで

※上記委員に加え、観光地域づくりに関する有識者である吉原俊朗氏（安田女子大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科講師）を特別委員として招へいし、意見聴取を行った。

(2) 審議状況

審議日程	主な議題
第1回策定委員会 令和6年8月22日	(1) 委員長及び副委員長の互選について (2) 竹原市今井政之顕彰施設基本構想策定事業の背景等について ① 事業の背景及び今井政之氏について ② 展示・事業の主体となる寄附作品について (3) 竹原市今井政之顕彰施設基本構想策定事業の内容について ① 基本理念(案) ② 本構想での検討事項 ③ 基本理念を実現するための機能（案） ④ 事業スケジュール
第2回策定委員会 令和6年11月6日	● 豊山窯視察 (1) 基本理念と機能に基づく事業の方向性について (2) 整備候補地について (3) 管理運営方式について
第3回策定委員会 令和7年1月23日	(1) 竹原市今井政之顕彰施設基本構想（案）について

■ヒアリング調査 概要

また、本基本構想策定の参考とするため、次の4団体にヒアリングを実施した。

ヒアリング日程	主なヒアリング事項
竹原観光まちづくり機構 令和6年9月9日	(1) 竹原観光全般について ① 現状の観光状況 ② 展開を予定している観光 ③ 課題 (2) 施設の活動について ① 竹原観光まちづくり機構の活動 ② 施設に求める活動 ③ 連携できる活動
豊山窯 令和6年9月9日	(1) 豊山窯との連携について ① 事業計画案 ② 作品寄附・収蔵 ③ 連携できる活動
竹原市観光協会 令和6年9月24日	(1) 竹原観光全般について ① 現状の観光状況 ② 展開を予定している観光 ③ 課題 (2) 施設の活動について ① 観光協会の活動 ② 施設に求める活動 ③ 連携できる活動
竹豊会 令和6年9月24日	(1) 施設の活動について ① 竹豊会の活動・経緯 ② 豊山窯との連携 ③ 連携できる活動

